



発行所 大阪府農業会議 大阪市中央区農人橋2-1-33 JAバンク大阪信連事務センター3階 電話 直通 06(6941)2701~2 http://www.agri-osaka.or.jp 発行人 中谷 清

プラン実行を通じ最適化推進

13理事と3監事を選任

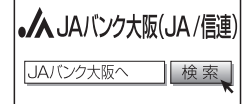
第146回通常総会

農業会議は6月17日、大阪市内・シティプラザ大阪で第146回通常総会を開催。令和元年度事業報告及び収支決算、13人の理事及び3人の監事をそれぞれ選任した。総会には来賓として大阪府環境農林水産部原田農政室長らが出席。会員99人のうち98人(書面表決者及び表決委任者含む)が出席した。

中谷会長は冒頭のあいさつで、新たな「食料・農業・農村基本計画」では、産業政策と地域政策を車の両輪として、食料自給率の向上と食料安全保障の確立を図ることとしており、このためには国内農業の生産基盤強化が不可欠で、府内においては大規模経営のみならず小規模農家や新規就農者など、多様な担い手を確保・育成することが重要であると述べた。

また、7月には、多くの農業委員会が、平成28年の農業委員会法の大改正から2回目となる改選を迎え、人・農地プランの実質化に取り組んでいる最中の改選でもあることから、農業委員会系統組織として、このプランの実行を通じて農地利用の最適化が推進できるよう、農業者の意向把握や地域の話し合い活動に取り組んでいくことが重要

年金の お受け取りは JAで



主な記事

- ◎農業会議役員紹介 2面
- ◎中谷会長に聞く... 3面
- ◎農委活動記録の
取り組み 4面

であると呼びかけた。

続いて、来賓として出席した原田農政室長があいさつ。今回の新型コロナウイルス感染症拡大の経験を踏まえ、新たな生活様式を踏まえた農のある暮らしを実現するために、ポストコロナ社会における新たな大阪農業を農業委員会や関係機関・団体とともに実現していくと述べた。

議事では、令和元年度事業報告及び収支決算、理事及び監事の選任について審議し、原案どおり承認された。総会終了後には、第30回理



中谷会長は、人・農地プランの実行を通じた最適化推進を進めたいとあいさつ

中谷会長

農業会議所副会長再任

6月29日開催の全国農業会議所臨時理事会で、会長に國井正幸・栃木県農業会議会長、副会長に中谷清・大阪府農業会議会

長、長澤豊・全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長が選ばれた。

また、専務理事には、柚木茂夫・学識経験会員が選ばれた。(北川)

風速計

インタビュールを受けた大阪のおばちゃんとおっちゃん。「パンでミツクす」やねんて」「ソーシャルでスタンと」を保たなあかん」◆コロナ禍の報道では、色々なカタカナ語や造語が飛び出した。ソーシャルディスタンスを社会的距離、パンデミックを世界的大流行、オーバーシュートを感染爆発とすると分かり易い◆「3密」(密閉、密集、密接)という造語には不謹慎だが「千三つ」(ほら吹き、嘘つき)を連想。自宅待機でテレビの見過ぎか、「3密」という言葉を耳にするたびに、「千三つ」が脳裏をかすめる。政策決定の透明化と言われる時代、密談、機密、密議の3密は許されぬ、指導者の千三つも願ひ下げだ

◆「コロナ後の世界」があちこちで囁かれ、食料・農業・農村基本計画でも議論された「田園回帰の動き」が脚光を浴びているという。どうかこれは、「千三つ」になりませんように◆「千いふ事三つもまことはなしとて」といふ男あり/浮世草子・桜陰比事、井原西鶴」(鈴木)

一般社団法人大阪府農業会議

役員紹介 (6月17日時点、敬称略)

6月17日に開催した第146回通常総会及び第30回理事会において、農業会議の会長、副会長、専務理事、理事及び監事を次のとおり決定した(氏名の下は会員の選出母体等)。任期は4年度通常総会の終結まで。

〔代表理事 会長〕



中谷 清
富田林市農委会長
学識経験
(常設審議委員)

〔副会長理事〕



橋長 俊彦
高槻市農委会長
(常設審議委員)



勝間 富士男
泉佐野市農委会長
(常設審議委員)

〔専務理事〕



鈴木 成
学識経験
(常設審議委員)

〔理事〕



阪本 喜代治
箕面市農委会長



井阪 正明
和泉市農委会長
【新任】



文能 啓志
柏原市農委会長
【新任】



中野 利佑
門真市農委会長
(常設審議委員)



田中 宏
堺市農委会長
(常設審議委員)



富宅 正浩
柏原市長
市長会生活環境部長



西川 喜清
府中央会副会長
(常設審議委員)



中木 福義
府信連経営管理委員会
副会長
(常設審議委員)



上西 武司
豊能町農委会長
(常設審議委員)



北島 政夫
泉大津市農委会長



青木 孝仁
学識経験
(常設審議委員)

〔監事〕

理事就任挨拶

田尻町 栗山 美政 町長
(町村長会 環境厚生部会長)



このたび、大阪府農業会議事に就任することになりました

田尻町の栗山美政でございます。田尻町における農業につきましては、かつて泉州地域が一大産地であった泉州黄玉ねぎ「吉見早生」の復活栽培に力を入れております。今後安定した生産量を確保し、田尻ブランドの確立を目標としています。また、大阪農業では、地産地消の取り組みを推進し、農薬と化学肥料を通常の半分以下で栽培

培した大阪エコ農作物や泉州黄玉ねぎ等のなわの伝統野菜を核として、大阪の農作物を広くPRしていくことが大阪農業の発展につながると考えております。皆様とともに一丸となり、大阪農業発展のため、全力を尽くしてまいります。ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

中谷会長再選インタビュー

大阪会長、全国副会長

—大阪府農業会議会長、全国農業会議所副会長、再任おめでとうございます。

ありがとうございます。微力ですが、みなさんのご支援・ご協力を賜り農業委員会系統組織の活性化のため、重責を果たして参りたいと思います。

—食料・農業・農村基本計画が見直されましたね。

3月31日に新たな食料・農業・農村基本計画が閣議決定されましたが、同時に新型コロナウイルス感染拡大という深刻な事態に直面しました。多くの人々が食料自給率目標はきちんと達成すべきだと思ったのではないのでしょうか。感染症もそうですが、食料についても危機に陥つてからの「危機管理」だけでなく、将来の危機に備える「リスク管理」が大事です。

—備えあれば憂いなしですか。将来に備え「希望」を持つことも忘れてはいけません。しかし、昨今は遊休農地が増え、ゲートボールに勤しむ老人の姿は見えても、農作業に精を出す農業者の姿が見られなくなりました。また、スポーツクラブで

汗を流すサラリーマンはいても自家の畑の草引きをする息子は見かけなくなりました。これから農業はどうなるのかと思います。「働き方改革」で増えた休日の一部は、出来れば援農に回して欲しいくらいです(笑い)。

それはともかく、こうした中でも、農業の大切さを多くの人に知ってもらわねばなりません。リーダーも「希望」や「夢」を絶えず語り、めざすべき方向を明確に示し、実践すべきです。

—めざすべき方向ですか。今後、不景気や少子化による国内市場の縮小は確実でしょう。政府が農産物の輸出や外国人観光客の誘致に力を入れるのも道理です。しかし、併せて忘れてはならないことは、農業がそれぞれの地域に根ざしたものであるという事実です。地域興しやまちづくりに農業・農地を活かし、今こそ「生命産業」である農業の復権を図ることで

す。みんなが夢や希望を持って生活できる「農業のあるまち」づくりが重要だと考えます。—「農業のあるまち」とは。

私は「農業のあるまち」を次のようにイメージしています。春にはレンゲ畑で飛び回る子どもたち。市民農園で週末を楽しく過ごす家族連れ。カルチャーセンターと同様に体験農園も賑わっています。秋のコスモス摘み取り園には初老の夫婦。ことさら「SDGs」(注)と言わずとも、水田やため池に棲むトンボやカエル、里山にはカブトムシやクワガタもいて多様な生き物が息する空間は、農業を通じた活動の中で維持されてきたものです。

畑の横の直売所には、四季折々、旬の農産物が並んでいます。普段訪れることが出来ないOLのために駅の近くには直売所の出店もあります。直売所は住民の農業理解を深める情報発信拠点です。

郊外には、小・中学校、「幼児連携認定こども園」、「就労移行支援施設」、「趣味特化型デイサービス施設」などが集まり、子

どもたちが農業体験学習をしたり、高齢者が福祉農園で生き生きと活動し、世代間交流も盛んに行われています。これらが現実になればと思います。

—その実現のためには、何が必要でしょうか。

私には、親から子へ、そして孫へと農地を守り自給率向上と安全・安心な農産物を作って行くという信念があります。若い人たちにも是非、自分の仕事に誇りを持っていただきたいです。農業には「潜在的な力」が備わっていて、地域の様々な課題解決の一助になります。こうした可能性を信じて農業者同士

が話し合いを重ね、「地域」のおかれた具体的な状況の中から「農業のあるまち」をイメージしてやることです。そしてそのきっかけを作るのは、農業委員と推進委員、農家、そして地域住民、市町村、JA等関係機関・団体だと思います。

—特に農業委員会系統組織のあるべき姿はいかがでしょうか。今、農業は重大な岐路に立たされています。高度経済成長期の農業専従者からバトンを受け継ぐ新しい担い手を育てることがさしせまった課題です。難しい舵取りが必要な時代であればこそ、特別職の公務員である農業委員、推進委員には公正と献身、情熱とリーダーシップが求められ、歴史の節目となる責任を果たさなければなりません。

大阪府農業会議は、今後とも、このことを肝に銘じながら、地域における農業委員会活動の充実・発展のため奮闘努力して参りますので、みなさんのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

—ありがとうございます。

(聞き手 専務理事兼事務局長 鈴木 標) 「SDGs」持続可能な開発目標。平成27年9月の国連総会で

採択。



遊休農地解消には丁寧な調査を

富田林市農委

富田林市農業委員会（中谷清会長）では、6月～7月で農地パトロールを実施する。今年度初日の6月3日は、中谷会長、委員5名、事務局職員3名の計9名で巡回。午前中は喜志・中野地区において、遊休農地を重点的に調査した。

された。

雑草が茂り始めた農地を見る委員からは「農地中間管理機構に貸すには、ほ場整備が必要。このままでは、借り手が見つかり

らない」との意見も。また、この日の調査では、遊休化していたが都市計画によって開発を控えている農地も確認された。

富田林市農委では、市内全地区を対象に「農業従事者アンケート」（現在回収中）を実施

しており、農業経営の状況や中間管理機構への貸付意向などを把握し、今後の座談会等の話し合い活動につなげていく。

巡回にあたり中谷会長は、「各地区での座談会やアンケート調査に取り組み中で、農地パトロールは、各地区担当委員か

ら聞いた各々の所有者の状況を踏まえ、農地の現況から今後の対応を検討していくという、遊休農地解消や農地利用を進める上での基礎となる調査だ。丁寧に取り組んでいきたい」と話した。

（中島）

農委活動の記録・集計を徹底

藤井寺市農委

調査した農地では、人に貸し付けていた農地が返されたものの、自身では高齢で耕作できず、また、貸出意向はあっても、農道が狭いなど条件も良くないため、農地中間管理機構でも借りられない事案が数件確認

藤井寺市農業委員会（大村光俊会長）は、平成23年度から継続して農業委員会委員の日常生活を記録している。

同市では、年度のはじめである4～5月ごろに、事務局が農業委員会委員に全国農業会議所の「農業委員会活動記録セット」を配布し記入を依頼している。

委員は定例総会や農地パトロールのような決まった日程で全委員が参加するもののほか、日々の巡回や地域の集会への出席、地元農家からの相談など個人で進めた取り組みについても逐一記録していく。

その後も継続的に活動と呼びかけ、年度末の3月に集計し、翌月の総会でとりまとめ報告を行っている。

事務局は、「委員活動を日数ベースで把握できることにメ

リットを感じる」と説明。次年度以降の計画を考える上で重要な判断材料となるだけでなく、対外的に農業委員会の活動を示す上でも重要な役割を果たしている。

現在、各農委が農地利用の最適化に向けた取り組みを行っているものの、こうした活動は外部からは見えづらいものもあり、農業委員、推進委員の日々の活動内容を対外的に「見える化」することが求められる。

農業委員会活動の見える化を

7月には府内37農委で農業委員会の改選が行われ、体制が変わる中で、今一度農業委員会活動の記録を徹底させたい。

（沼田）

6月末までに点検評価

活動記録もお忘れなく

農業委員会法の大改正から5年目を迎え、今月には多くの農委で改選を迎える。農委では、「人・農地プラン」の実行を通じた農地利用の最適化推進の手段として、活動の点検評価や記録の取り組みが大切だ。新型コロナウイルスの影響で各種会議が延期されているので、紙面を通じてお知らせする。

農水省通知「農業委員会事務の実施状況等の公表について」

に基づき、6月末までに大阪府へ提出する必要があるのが「令和2年度の活動計画及び令和元年度の点検・評価」。毎年度、農地利用集積や遊休農地解消の目標と実績を記載し、ホームページなどで公表する。

全国農業会議所が全国調査の一環として、実施するのが「農地利用最適化活動チェックシート」。農委では、農業者の意向把握や地域の話し合い活動への参画の進捗状況について、四半

期毎に農業会議を通じて報告する必要がある。

農業委員、推進委員にぜひお願いしたいのが、活動記録の取り組み。農地パトロールや相談対応など日々の活動を記録していくもので、全国農業図書「農業委員会活動記録セット」の活用がおすすめ。

（北川）



地図を見ながら、現況を確認する（富田林市）



農委だよりコンクール募集開始

全国農業会議所が実施する「第27回農業委員会だよりコンクール」を受け、農業会議ではこのほど募集を開始した。

コンクールは農委だよりや市町村広報を活用し、地域に密着した情報提供活動を行うことで、「農地利用の最適化」を推進する農委を表彰するもの。

選考は、広報活動に伴う効果、記事の読みやすさ、レイアウトの工夫などの基準により行う。特に「情報の公表」の観点から、農業委員会業務の予定のお知らせ

せや、農業委員会活動報告の掲載

は必須としている。農委は10月1日までに申込書に発行誌を添えて農業会議に送

河内長野市農委、全農新聞賞

高槻・枚方・堺市が優良農委

全国農業会議所は情報提供活動事業に関する表彰を行った。

第26回農業委員会だより全国コンクールでは、河内長野市農委の「河内長野市農委だよりあぐりん」が全国農業新聞賞、高槻、枚方、堺市農委が全国農業

付する。

昨年度は愛知県豊田市農業委員会が最優秀賞を受賞。入賞した農業委員会だよりは全国農業会議所ホームページに掲載されている。(田村)

新聞優秀農業委員会・団体等表彰に選ばれた。(藤原)



TAKATSUKI

農委だより

高槻市農業委員会(橋長俊彦会長)が発行する「TAKATSUKI A T S U K I 農委だより」は平成6年1月に創刊した。前年は記録的冷夏の影響で「平成の米騒動」が起こり、年末に米の市場開放の突破口が開かれた年である。

故井川勝巳会長は創刊のあいさつで「わが国の農業と農政は一大転換期に直面し、課題山積の状況。農業委員会の

使命はまことに重要であり、より一層農業者とのコミュニケーション強化を図り、機能発揮に努めねばならない」と話している。記事では国・地域の農政の動きを伝えるほか、人物紹介や地域毎の朝市の様子を紹介。いずれも写真が多く使われ、当時の雰囲気がよく伝わってくる。また、現在は終了しているものの特徴的な連載が「地場産業

の歴史」。服部の白瓜と富田漬、寒天、鶏殿の葎(よし)、独活(ウド)、柳行李など、かつて市内で盛んに取り組まれていた産業が詳しく紹介されており、読めば高槻市農業が分かる貴重な資料となっている。

既刊。農政の動きと地域のニュースを、多くの写真を交えて農業者に伝えている。(田村)

現在、年2回発行で97号まで



委員改選時に新聞購読の徹底を

大阪府農業委員会組織では、「かけがえのない農地と担い手を守り、活かす『新・大阪農業リフレッシュ運動』」に基づき、全国農業新聞の農業委員・農地利用最適化推進委員1人につき2部以上の新規申し込みの確保と、農業委員数と農地利用最適化推進委員数の5倍以上の部数達成に向け、普及推進に取り組んでいる。

大阪府内では7月に37の農業委員会において委員が改選される。これに合わせて、新任の農業委員への新規購読と、退任する農業委員への継続購読を推進されたい。(沼田)

業委員・農地利用最適化推進



全国農業新聞

私たち事務局職員がおすすめします。

給食用野菜を市民へ

箕面市 直売会を開催

箕面市は、コロナ感染症の感染拡大防止対策での学校休校に伴い、販路を失った給食用野菜の生産者を支援するため、2月28日から週2回、直売会を開いている。



直売会は毎回長蛇の列ができる

市は、遊休農地の解消と学校給食での箕面市産農産物の利用拡大を目的に、平成26年2月に箕面市農業公社を設立。公社職員が生産した農産物や、公社を通じて市内農家から買い取った農産物を、学校給食で消費するシステムを構築している。

納品する農家の中には、給食用専門の農家も少なくない。

農の成長産業化推進会議総会

経営感覚に優れた次代を担う農業経営者を育成するため、大阪府農政室とJAGグループ大阪は共同で平成28年度から、「大阪アグリアカデミア運営事業」、「経営強化コンサルプロジェクト事業」、「農業者チャレ

「市場への出荷も検討したが、価格が安く手続きも時間がかかる。それならば、普段子供たちが食べている地元産の野菜を市民に味わい知ってもらおう」とが一番の方法ではないか」と農業振興課。

「野菜を買いに来た消費者は「初回に買いに来て、その美味しさのとりこに。何回も足を運んでいる」「子供の食べる給食用と聞いて、安全・安心な野菜」と感じた。値段も安いのでありがたい」と笑顔をみせる。作物野菜を給食用に栽培していた長谷川貴治さん(45)は、直売会での販売をきっかけに夏野菜の栽培を始めた。

「直売会は消費者の感想が聞け、モチベーションが上がることが、個別包装の手間や販売で農作業の時間が削られる点は非常に厳しい。計画的に栽培し、給食向けと直売両方に対応できる」と感じた。値段も安いのでありがたい」と笑顔をみせる。作物野菜を給食用に栽培していた長谷川貴治さん(45)は、直売会での販売をきっかけに夏野菜の栽培を始めた。

ンジプロポータル事業」、「新規就農村運営事業」からなる農の成長産業化推進事業に取り組んでいる。

農政室は6月11日、大阪市内で「農の成長産業化推進会議」総会を開いた。総会では、

「コロナ禍での一時的な対応で始めたが、消費者からは続けてほしいという声も。販路の一つとして定期的な開催ができないか検討していきたい」と同課は期待を寄せる。(中島)

大阪府からのお知らせ

暑さのがまん、あかん!

府内では昨年、5182人が熱中症により救急搬送されました。特に7～8月は農作業中の熱中症が毎年発生しており、十分な対策が必要となります。併せて、今年には新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた暑さ対策に心がけましょう。

- ◇屋外では、熱中症リスクを考慮し、人と十分な距離(2メートル以上)を確保できる場合、マスクをはずしましょう。
- ◇マスク着用時には、強い負荷の作業や運動は避け、水分補給や休憩を心がけましょう。
- ◇冷房時でも換気を確保しつつ、室内温度を適切に管理しま

- ◇日頃から健康チェックを行い、体調が悪いと感じた時は、無理せず自宅で静養しましょう。
- ◇熱中症になりやすい高齢者、子ども、障がい者への声掛けを、3密(密集・密接・密閉)を避けつつ行いましょう。
- ◇暑さから身を守るための3つの習慣をおすすめします

暑さから身を守る3つの習慣

- 備える** 暑さにつよい「からだづくり」
- 気づく** 暑さを知らせる「情報の活用」
- 涼む** 暑さをしのぐ「クーラーの利用」

「大阪府暑さ対策情報ポータルサイト」

大阪府 暑さ対策で検索



情報提供・お問い合わせ
大阪府環境農林水産部 エネルギープ
政策課 温暖化対策グループ (06-6210-9553)

(光崎)

第51回常設審議委員会

大阪府農業会議は6月17日、大阪市内・シテイプラザ大阪で第51回常設審議委員会を開いた。

第1号議案の農地法第4条及び第5条の規定に基づく意見聴取に回答する件(高槻市、茨木市、池田市、箕面市、和泉市、田尻町、岸和田市、泉佐野市、泉南市、堺市、太子町、河内町、松原市、藤井寺市、八尾市、枚方市、寝屋川市、門真市、交野市農業委員会会長)については、40件(4万4742

平方メートル)を許可やむを得ないと認め、回答することを議決した。回答の内容は次のとおり。

【第1号議案】

第4条	第5条	合計
6	34	40
3723	4万1019	4万4742

農地区分別件数は、3種農地20件、2種農地20件

コロナ支援の窓口開設

労働力確保緊急支援事業

農業会議はこのほど、労働力確保緊急支援事業の一環として「援農情報相談窓口」を開設した。

窓口は、全国農業会議所が開設した農業労働力のマッチング特設サイト運営のサポートを行う

特設サイトでは、新型コロナウイルス感染症の影響により外国人技能実習生の入国制限等が発生し、人手不足に陥っている農業経営体と、農業で働きたいと考えている方の出

堺市農委・田中会長 農林水産大臣表彰受賞

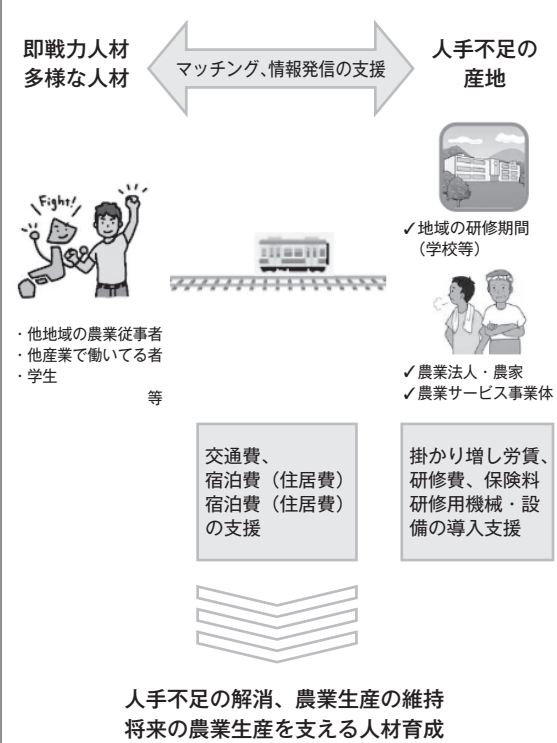
このほど堺市農業委員会の田中宏会長と同農業委員会は、遊休農地の解消と農業振興に成果を上げ、農業委員会活動の活性化が顕著であったとして、令和元年度農林水産大臣表彰を受賞した。6月4日、堺市役所で大阪府環境農林水産部の原田行司農政室長から表彰状が伝達された。農林水産省は、農業委員会

の事務の遂行に関し、担い手への農地利用の集積・集約化や遊休農地の発生防止・解消など農地等の利用の最適化の推進に顕著な功績のあった農業委員会及び農業委員等に対し、農林水産大臣賞を授与し、その活動の活性化を図っている。

府内の受賞は平成27年度以来の4年ぶり。



〈事業イメージ〉



会いを支援する。お問い合わせは大阪府農業会議(06-6941-2701)まで。(田村)

臨時総会の開催等決議

第30回理事会

大阪府農業会議は6月17日シテイプラザ大阪で第30回理事会を開催。

第1号議案の会長・副会長の選任、第2号議案の専務理事の選任では、中谷会長、橋長副会長、勝間副会長、鈴木専務理事がそれぞれ選任された。第3号議案の常設審議委員の選任についても承認された。

また、6月にJA等関係機関・団体の役員改選があり、7月には府内の37農業委員会で委

員の改選があることから、農業会議の理事等の補充・選任が必要となる見込み。このため、理事等の補充・選任を議案とする第147回臨時総会の招集および付議事項を決定。

さらに、令和2年度農業委員会大会の開催については新型コロナウイルス感染症の拡大の状況を踏まえ、8月18日開催の第31回臨時理事会に諮ることとした。

(藤原)

コロナ禍の農業者を支援

南海電鉄がマルシェ開く

南海電気鉄道株式会社は、6月15〜20日に、府の協力のもと、南海なんば駅で「今こそ、がんばりませ！農家・産直南海なんばマルシェ」を開いた。同社は、以前から、沿線地域の遊休農地を活用した体験農園「くらし菜園」の運営や、な

んば駅構内での「沿線マルシェ」開催など、農業関連事業に取り組んでいる。新型コロナウイルス感染拡大により、飲食店や学校給食への出荷停止などで影響を受けている農業者の支援について、府に相談。コロナ禍での農業者支援として運営する「大阪産(も

ん)エールサイト」で紹介している農業者を中心に、府が声をを行い、開催が実現した。期間中は農業者が日替わりで農産物を持ち寄って販売。沿線の出店者には、最寄り駅への納品で、あとは社員が電車で運び、販売も担う支援も行った。「報道などで苦しい状況を知った。農産物の輸送等は初の試みだが、普段から関わりのある農家の力になりたかった」と南海電気鉄道株式会社グレートーなんば創造室まちづくり企画部の竹田課長補佐は話す。初日に出店した泉佐野市の三浦農園(代表・三浦良弘)は「毎年納品していた飲食店やホテルのタマネギの注文が無くなり、2〜3割廃棄に。この状況で直接消費者と関われることは、励みになる」と話す。(中島)

科学的知見を基盤とした説明がほとんど広がらなかったことが根本原因ではないかと考えている。例えばこの間、『PCR検査』や『偽陰性』といった言葉を頻りに耳にしたが、この言葉の意味を科学的な視点から捉えることができれば、事態の全体像に

れるように調査された試薬と、喉や鼻の粘膜から採取した試料を混ぜて専用の機械にかけるだけである。採取した試料に新型コロナウイルスが含まれていれば、そのRNAだけが増幅してその増幅をもつて陽性と判定される。一方、採取した試料に新型コロナウイルスが含まれていないと判定している。



通勤・買い物途中の客が農産物を前に足を止める

随想

新型コロナウイルスに関する『緊急事態宣言』が5月25日に全面解除され、宣言発令から49日目に「宣言による自粛」の状態は終わった。小学生の集団登校の風景が戻り、チャロラダが通勤電車に学生たちの姿が戻ってきた。しかし、この時点で多くの人がすっきりとした気持ちになれなかったのではないかと思う。

その原因は、『緊急事態宣言』が発令された4月7日時点と比べて何がどう変わったのか、あるいは何が変わっていないのか、について誰からも腑に落ちる説明が聞けなかったからではないだろうか。そして、それは、



『PCR検査』に思う

京都大学大学院 農学研究科 教授 中嶋 鉄也

対する社会的理解がより深まっていたのではないかと思う。ウイルスはRNAとタンパク

質から構成される。『PCR検査』は特定のRNAだけを増幅

することでその有無を調べる手法である。操作は、新型コロナウイルスのRNAだけが増幅さ

なければもちろん増幅しないのでその結果から陰性と判定される。リアルタイムPCR検査は、より精度の高いPCR検査のこ

とで、試料中のRNA量つまりウイルスの数まで判定できる。PCR検査において特定のRN

Aを検出する精度は極めて高く、操作過程で人為的ミスがなければ、間違つて陽性と判定される、いわゆる偽陽性はほとんどない。それに対し、偽陰性の判定は、粘膜を採取する際に、うまくウイルスのいるところから試料を採取できなかった場合に下されるもので、PCR検査は正確にその試料中にはウイルスはいないと判定している。

農学における遺伝子研究ではPCRは極一般的な手法である。実際に、私の研究室でも学部生が卒業論文研究の中でリアルタイムPCRにより得たデータを使っていて、ウイルスが原因の病気であるトマトモザイク病やイネ萎縮病の検出にもPCR検査が使われる。PCR検査は、農業の分野にも密接に関連している。

緑の革命と言われる半矮性コムギの作出やF1採種技術の普遍化のように、これまでも農学は様々、農業に貢献してきたことを知る人も多いと思う。現代農業は、農業従事者の高齢化など喫緊の課題を多々抱えるが、スマート農業や生命科学の進展で解決していくことを期待したい。農学の成果に対する皆さんの理解を得つつ、「農学栄えて、農業賑わう」を実現したいと思う。

◆筆者の紹介(ながさき てつや)

京都大学大学院農学研究科附属農場教授(主事)、博士(農学)、専門は、育種学、植物遺伝学。平成28年4月に京都府木津川市に新設・移転された新農場が職場で、イネ、コムギ、トマト、ダイコン、モモなどの食用作物、園芸作物を材料に開花制御や、果実発育・老化に関する研究を実施している。また、主に学部学生等を対象とした実習教育を行っている。